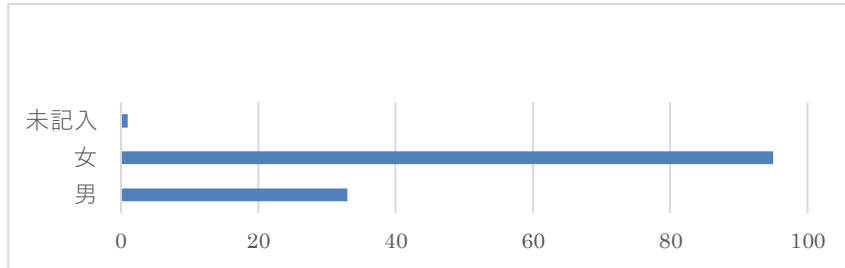


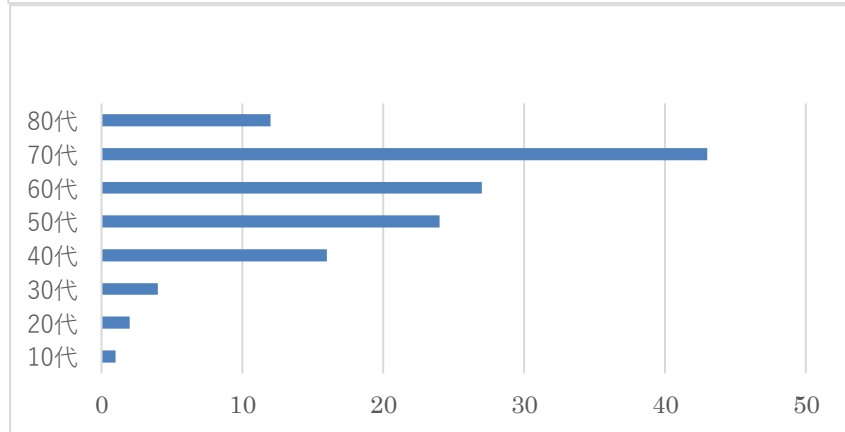
(第9回) 地域医療福祉フォーラム2018 アンケート結果

参加数 207人 アンケート回答数 129人 (回答率 62%)

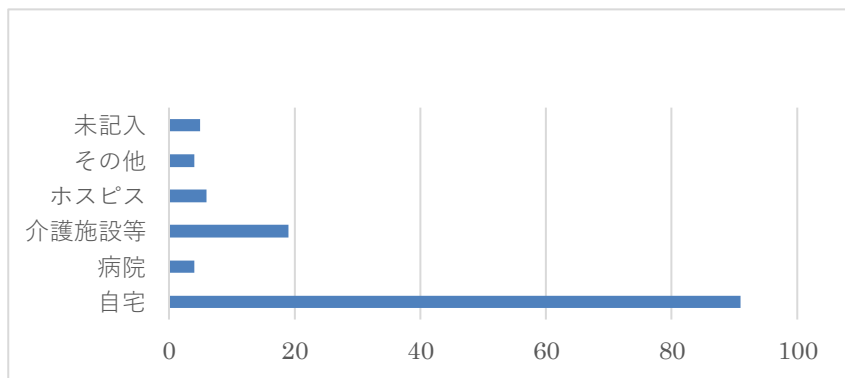
Q1 性別	
男	33
女	95
未記入	1



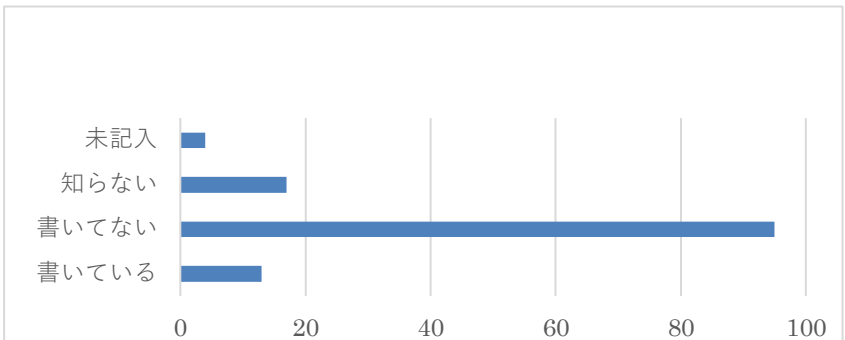
Q2 年齢	
10代	1
20代	2
30代	4
40代	16
50代	24
60代	27
70代	43
80代	12



Q3 要介護状態になった時、最期を希望する場所	
自宅	91
病院	4
介護施設等	19
ホスピス	6
その他	4
未記入	5



Q4 リビングウィルを書いていますか	
書いている	13
書いてない	95
知らない	17
未記入	4



Q5 ご意見、ご感想など

●第1部の長尾先生の講演はテンポよく様々なお話しをしていただき、とても参考になり来てよかったと思いました。

第2部のシンポジウムも様々な立場の方から具体的なお話しを聞いてよかったです。

●「やめどき」終末期の自覚が大切だと感じた。「最期を決める」とは死に場所だとかんじていたが、終末期の暮らし方で、終末期への見極めについて勉強になりました。楽しい講演会でした。

●去年の9月30日に99歳の母が死去しました。長尾先生のお話しにあった、当日朝食事も元気に食べてくれましたが、午前10時頃から体調を崩して市民病院で午後2時に息を引き取りました。今日のお話しを聞いていて私たちも大変安心しました。

●事前に自分の意志を示しておくことの大切さがわかりました。先生のお話は死や終末期に関する知識を持つことができる内容でためになりました。

●参加できてよかったです。余呉町の医療難民(診療所もあてにならない)では在宅医を探すことが困難です。

●先生の講演はおもしろく聞かせていただきました。本人の意志で医療、生き方を決めるリビングウィルをあらためて知ることができました。自身が余命宣告されるまでに、少し考えたいと思いました。シンポジウムでは現在の介護医療のお話しが聞いてよかったです。

●参加できてよかったです。本人の意志について改めて考えました。

●年齢を重ねてきましたのでいろいろな事に興味があります。できるだけ子供たちに迷惑をかけずに過ごしたいと思っています。現在小規模多機能で勤務していますが、いろいろな家庭、利用者がおられます。参考にもしたいですし、自分の生活のあり方にも活かしたいと思います。長尾先生の講義をもう一度聞きたいです。

●看取りという概念に対して、初めて長尾先生やシンポジウムで聞くことができた。自分自身が看取りに対してどう向き合うのかを考えていきたいと思いました。

●長尾先生のお話し大変楽しく拝聴しました。本を読みたいと思います。

●一番大切なことは自分の判断だとわかり一筆書いておくことだとわかりました。自宅で居られたらなるべく口から物を入れること、点滴は水分の摂り過ぎで受けないようにする。

●百日前に3年ちょっと脳梗塞で病院に入院していた98歳の祖母が亡くなりました。毎日食事介助をしに行っていましたが、最後の臨終も一緒にいました。「看取り」について関心がわき、与えられた宿題としてもっと深めていきたいと思い京都から来ました。今日来てよかったです。ありがとうございます。

●年に1回は今回の基調講演「人生の終わりを一緒に考えませんか」を企画してください。情報提供してください。楽しみにしています。

●色々な講演に参加させてもらっていますが、わかり易くて良かったです。現長浜市も長尾先生のような方が看取りや家庭医になって下さったらいいなと思います。又、永源寺の花戸先生のような方がおられたら知らせたいです。

●「人生の終わりを一緒に考えませんか」この標題に関心を持ち参加しました。余りピンとこなかったけど、興味は持っていましたが今日をきっかけに考えたいと思い始めました。そうは言っても年齢的には団塊の世代の身として不安も覚えています。1つ1つ具体的に身辺整理をスタートすることにします。

●看取りについて大変勉強になりました。終末期に患者、家族と話し合うことの大事さを改めて感じました。

●長尾先生のお話しはとてもおもしろく日常の自分の考え方について、とても考えさせられるよい機会となりました。「～になったから…あきらめない！」大切なことですね。自分の死についてしっかり見つけて書いて

みようと思います。母を在宅で看取った事、幼い子を残してがんで亡くなった友達のこと、思い出しながら聞かせていただきました。ありがとうございました。

●老々世帯・老々認々・おひとり様の認知症・孤独死は増えていく・住みなれた地域が大事。食べて笑えるか？

●NSです。とても勉強になりました。ご家族への情報提供に役立てたいと思います。

●このような機会をつくって頂きありがとうございました。

●今朝まさに担当する末期がんの利用者さんがお亡くなりになり、退院時3日と言われたのか2か月自宅で過ごすことができました。本人の思い、家族の力を支えられる一人でもよかったと思って今日の講演会に参加しました。私の父は今年、溺れる状態で、病院で死を迎え今でも心残りでなりません。「やめ時」が言えないこと…介護する人の決断は難しい。受け入れられる医療者がいてくださることが大事だと思いました。リビングウィル大切です。後悔ないように、普及していけるといいと思っています。

●日本では尊厳死は認められていませんが、尊厳死も議論の上にあがっていませんが、尊厳死を法的に認めもらう様法的な担保が必要と思います。でなければ、本人が望んでいない終末期になった時（長尾先生のご本を何冊か読みましたが）ムダで単なる延命致傷が延々と続けられるからです。本人を苦しめ続けるのはあまりにも「こく」だからです。経済的にも家族に大変迷惑をかけることにもなるからです。

●エンディングノートを書いています。今日は参考にさせてもらって良かったです。がんになって二年、旅行に行き、好きですのでよく出かけます。これからも前向きで生きていきます。今日はありがとうございました。

●生きている間に自分の意志を書いて置く事が必要であるとよくわかりました。（苦しまずに終わらせてあげたいけど、家族は迷う事が多くあるので）最後までその人らしく、自分らしく、生きることができたら何も言うことはありません。

●今年後期高齢者の仲間入りをすることとなった。近頃自分の健康不安を時々感じるようになり、フォーラムに行ってみようと思って参加した。母親の介護をしているがこの先自分の体力的な面も含めてどうなっていくのだろうか、果たして最期まで母親を自宅で看取ることができるのか心細くなってきた。今は地域に支えていただける医療機関、訪問看護、施設がどこにあるのか、どんな形で支えていただけるのか知りたいと思う。

●長尾先生の講演を聞いて現在、在宅看取り中のケア点滴について考えさせられました。

●参加させていただき大変よかったと思います。本人の不安、介護している自分自身の不安を少しでも少なくしたいです。みんなに相談することが、みんなの一つの考えで向かうことの大切さがわかりました。本人が楽に生きられるようが一番の望みです。

●大変勉強になりました。ありがとうございました。

●勤務先で4回シリーズの看取り研修を受講している最中なので、大変参考にも勉強にもなった。長尾先生は現代医療に疑問を投げかける数少ない医師なので、説得力があり内容がとても興味深いものである。司会進行の方座長の方が声もきれいで話し方が上手だった。

●自分の意志（リビングウィル）をしっかりと書き残すこと。自分の家族やつながりのある人と話しておくことが大切だと気づかされました。ありがとうございました。

●自分がこれから死を迎える事でどうしたらよいかということを考えていました。参考になりました。

●今回初めて参加しました。10年以上前からこのようなフォーラムがあったこと、そこでいち早く在宅医療に、目覚めていかれた方もおられたことに驚きました。近年、葬儀の形、墓のことなど話題になることはありますが、その前に看取り、看取られが、あることを認識しました。このような話題が地域で、家族でできてい

くと、将来への不安もなくなっていくのではないかと思っています。在宅医療を頼める診療所がどれくらいあるのでしょうか。

●長尾先生のお話は分かりやすく課題提示もあり、軽く上手に話してくださった。亡くなってから時間を置いてから訪問する。その時間が大切と言われていた。本当にやさしさ思いやり。

●第1部の基調講演は内容もよくわかりやすくとてもよかった。第2部シンポジウムは各部門の話が聞けて企画計画された方に敬意をはらいます。

●長尾先生に主治医になってもらえる方々は、本当に幸せだと思いました。湖北にも先生のようなお医者さんが増えて欲しいです。そうすれば家にいることがきつと怖くない。病院があるから大丈夫ではなくて、信頼できる先生がいるから家でも大丈夫。であってほしいと思いました。

●私も自然に枯れるように終末期を迎え、神様のお迎えを待とうと思います。無理せず自然をありのままに受け止めようと思います。今のうちに自分の終わりのことを記しておきたいと思いました。

●ここ最近フォーラムに参加しています。今回は非常にユニークな基調講演で時間の経過が早かったです。節目の10回目楽しみにしています。

●初めて参加させていただき、もっと早く知っていたらと思っています。昨年2月に亡くなった義兄の最期を思い起こし在宅で見送る方法があったと（本人の強い希望あり）後悔いっぱいです。命をながらせる選択のあり方を深く思いました。今後自分を含み周りの人たちを見送る道のみた思いです。有難うございました。

●多くの内容の貴重な学習ができてとてもよかった。もっと聞きたかった。時間をもっと長くして話を聞きたい。再度開催してほしいと思いました。

●自分の最終までの人生を又新たに考え直した。枯れて死を迎える様家族やかかりつけ医と相談しておきたい。

●長尾先生の基調講演、いろいろとためになることも多く勉強になりました。多くの患者さんを看取ってこられる中での経験された話はその人その人に添ったケアをなさっておられることに深く感動いたしました。終末についての話し合いをしていきたいと思っています。

●大変よかったです。

●最期迎える時、じぶんはどうして欲しいか家族で話し合い言葉だけでなく記録に残す必要がある事。又最期の時自分らしく生きるために今まで苦しい事などがわかり良かった。「つどいの場」介護を支えるにはじぶんたちの地域でも直ぐ必要だと感じた。長尾先生の講演は楽しく聴く事ができ、また聴いてみたいと思った。

●今日のお話しを町かサロン（80歳以上）で話合いたい。

●どうせ死ぬのだからスムーズに死にたい。今日のお話しを聞いてなんとかなりそうだと思います。よかったです。

●先日母が76歳で亡くなりました。次はいずれ我が身 考え直してみたい これを機にして。

●平穏死について始めて聞いたが良く分かった。今回の良い話を参考にこれからの自分の人生を考えてみたい。

●よかったです。認知症でも「明るく生きれる」と安心しました。

●76歳1人暮らしですが、今日のお話しを聞いて「ホッ」とすることが多かったです。いいお話でした。

●実際に活躍されている方の経験を聞きとてもわかりやすかった。

●二部がもう少し患者のご家族に関わった職としてのかかわり一連の話だと理解しやすかったと思います。流れが繋がっているといいかなと思います。

●長尾先生は大腸がんは完治するといっていました。何を言っているのか 完治しないよ。バカな事をいうな、頭にくる、話を聞く気にならない。大腸がんの患者を治してください。バカな先生をよぶな!!正しいいい

方、完治する人もいるが必ずまた大腸がんになる。一部を知っているだけでえらそうにしゃべるな。またおかしな事をいっておる、がんでも食べられる、最後まで食べられる。そんな事はない。

●大変有意義な話をして頂き有難うございます。多くの年寄が居てもこんな大事な話を聞き逃している老人がたくさんいます。ホールが満席になる手立てを考えてやってください。私は早速これからの「憶い」を文字に書いて家族やお世話になっているお医者さんに伝えようと思う。よい機会を作って頂き有難うございました。

●今までの講習とはちょっと違い、話の中にあつたように、「自分の死」「家族の死」は考えているようで通りすぎたい思いますが… 長尾先生の話聞き家族（夫のこと）と共に私のことも考えます。まずはエンディングノートを書いてみて、みようと思います。

●大変、今後の終末期を考えるよい機会となった。

●長尾先生の話は湖北の全ての医者が聞くべきだと思います。上手く家族と渡りあるけない医者はまだまだたくさんいると思います。なんでここまでののか悩まされる事もたくさんあります。

●長尾先生の話もよかったけれど、滋賀県で在宅医療をしている医師の話が聞きたい。

●医療支援は誰が望んでいるのか？

●講演していただいた長尾先生の御本も読ませて頂き、今日も大変解り易く勉強になりました。かかりつけ医の先生をなかなか決めかねています。高齢者2人で暮らし居りますが、看取りの経験者の方のお話しにも色々と考えさせられました。

●私も68才 夫73才 もうそろそろ人生の終わりを考えていかないと…と思って来ました。人生の終わりを考えると同時にこれからどう老化と向き合っていくかとても参考になりました。夫も一緒に来るべきでした。

●長尾先生のお話しは大変良かったです。終末期の迎え方にも共感しました。その話の後の第2部シンポジウムは何だか形式的な感じがしてあまり心に響く、心に残るお話しでなく残念でした。もっと寄り添う介護（快護）がこの長浜・米原…滋賀県で増えてほしいと願います。

●アルツハイマー型認知症の母を介護しています。（91才）近頃ほとんど会話しなくなった母にどのように接しているのかわかりません。ただ何もしないまま食べて寝るだけの毎日でいいのでしょうか。講演を聞いてこれからの介護を考えたいと思います。足も痛いため歩行が難しいので家から病院、デイ以外は外出したことはありません。暖かくなったら車椅子で近所に連れだしたいと思います。

●講演内容について、自分が今まで考えていた死生観が変わった。非常に参考になったが内容についてメモしきれなかったのが残念でした。参加者がもっとあればよいと思いました。参加者が増えるよう広報等に工夫が必要ではないでしょうか。

●長尾先生のお話はとても参考になりました。家族と話し合うきっかけとなるとと思います。

●長尾先生のお話しは医療従事者も家族も本人も知っておくべきだと思います。自分がどの立場にもなりうることを考える必要があると思いました。具体的な寄り添い方、最後のお話が聴けて、病棟で働く看護師として家族の提案できることや思いの確認等行っていこうと思いました。第1部も第2部も参加できて良かったです。ありがとうございました。

●参加されている方は意識が高く、理解されていると思います。しかし多数の人が老衰で亡くなることを理解していません。老衰なのに中心静脈、胃ろうに、あげくのはて、看られませんかと返事。老衰で亡くなることをもっと一般に常時指導必要。生まれたら死に向かっていくので、小学生よりの教育が必要。自分の身体がどのようにできていて自分の口にしたもので作られていること、病気は自分で防ぐことをしっかり教育する必要があると思います。仙台市など積極的ですので参考に。